

平成23年3月18日公表

平成22年産日本なし、ぶどうの結果樹面積、 収穫量及び出荷量

－ 日本なしの収穫量は、前年産に比べて19%減少 －

【調査結果の概要】

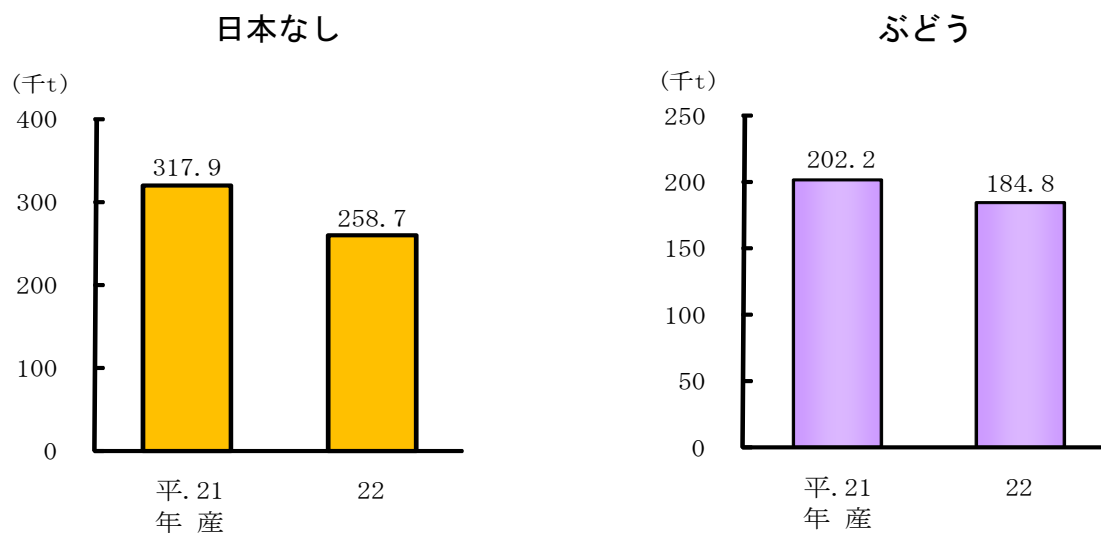
1 日本なし

日本なしの収穫量は25万8,700 tで、開花期の天候不順に伴う結果数の減少等により10a当たり収量が減少したこと等から、前年産に比べて5万9,200 t（19%）減少した。

2 ぶどう

ぶどうの収穫量は18万4,800 tで、果実肥大期の天候不順に伴う果実の肥大の抑制等により10a当たり収量が減少したこと等から、前年産に比べて1万7,400 t（9%）減少した。

図1 日本なし、ぶどうの収穫量の推移（全国）



○収穫量とは、収穫したもののうち、生食用、加工用として流通する基準を満たすものの重量をいう。

注：1 本年産は主産県を対象に調査を実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した。

2 この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧になれます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

◎ 調査結果の利活用

- ・ 果実を安定的に供給するための生産数量目標の策定及びその達成に向けた各種対策の推進のための資料
- ・ 農業災害補償法に基づく共済事業の適正な運営のための資料

◎ 関連データ

1 累年統計表

(1) 日本なし

区 分	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	卸売価格 (8月～9月)
	ha	kg	t	t	円/kg
平成 13 年産	16 400	2 240	368 200	340 400	232
14	16 100	2 330	375 700	346 000	248
15	15 700	2 110	332 200	305 300	234
16	15 500	2 110	328 100	300 800	248
17	15 200	2 380	362 400	333 000	232
18	14 900	1 960	291 400	266 600	303
19	14 600	2 030	296 800	272 300	310
20	14 300	2 300	328 200	301 700	239
21	14 200	2 240	317 900	292 700	233
22 (概数)	13 900	1 860	258 700	238 800	363

資料：農林水産省統計部『果樹生産出荷統計』、『青果物流通統計』（以下の統計表において同じ。）。

(2) ぶどう

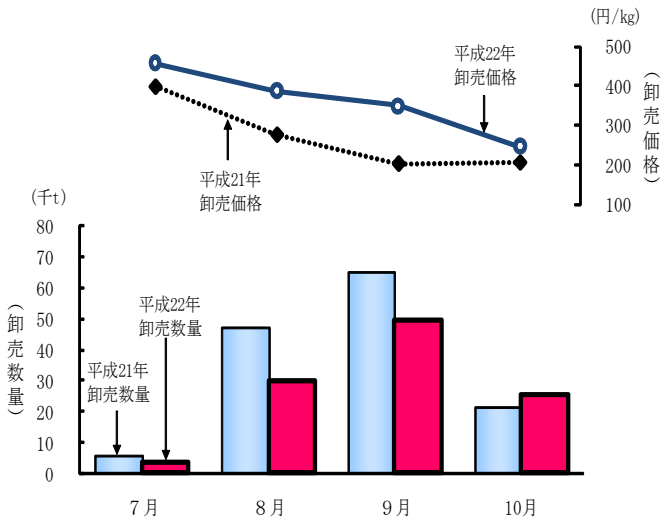
区 分	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	卸売価格 (7月～10月)
	ha	kg	t	t	円/kg
平成 13 年産	19 900	1 130	225 400	206 400	607
14	19 700	1 180	231 700	212 300	598
15	19 400	1 140	220 800	201 400	558
16	19 200	1 070	205 600	187 500	616
17	19 000	1 160	219 900	200 800	565
18	18 900	1 120	210 500	191 800	607
19	18 600	1 120	209 100	190 700	665
20	18 400	1 090	201 000	183 300	622
21	18 300	1 100	202 200	184 800	619
22 (概数)	18 000	1 030	184 800	168 500	725

○結果樹面積とは、生産者が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積をいう。

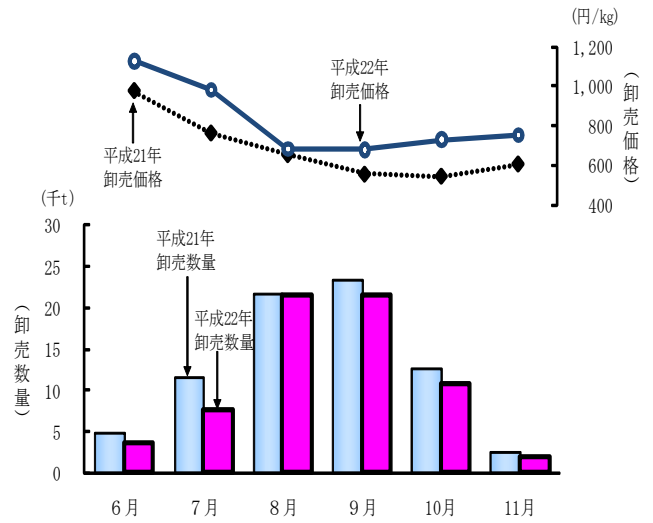
○出荷量とは、収穫量から生産者の自家消費、生産物を贈与した量、収穫後の減耗等を差し引いた重量をいう。

2 日本なし、ぶどうの卸売数量及び卸売価格の推移（主要卸売市場・国産）

(1) 日本なし



(2) ぶどう

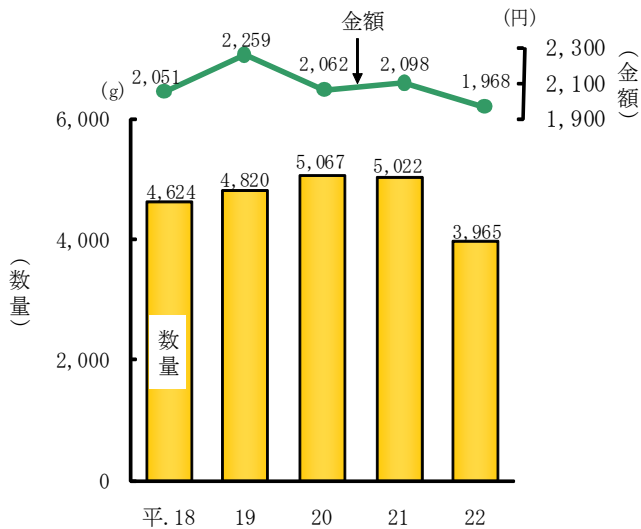


資料：農林水産省統計部『青果物流通統計』

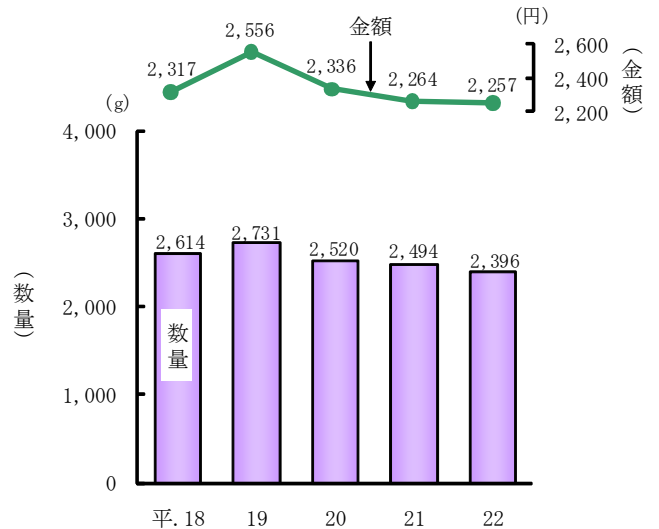
注：主要卸売市場とは、全国の主要都市に所在する青果物卸売市場の89市場をいう。

3 なし、ぶどうの一世帯当たり年間の支出金額及び購入数量の推移

(1) なし（西洋なしを含む。）



(2) ぶどう



資料：総務省『家計調査年報』

【調査結果】

1 日本なし

平成22年産日本なしの収穫量は25万8,700 t、出荷量は23万8,800 tで、前年産に比べてそれぞれ5万9,200 t（19%）、5万3,900 t（18%）減少した。

- (1) 結果樹面積は1万3,900haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。
これは、生産者の高齢化に伴う廃園等が進んだためである。

- (2) 10a当たり収量は1,860kgで、前年産に比べて17%下回った。
これは、開花期の天候不順の影響により結果数が減少したこと等による。

- (3) 都道府県別にみた収穫量割合は、千葉県が12%、茨城県が10%、福島県及び栃木県が9%となっており、この4県で全国の4割を占めている。

図2 日本なしの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移

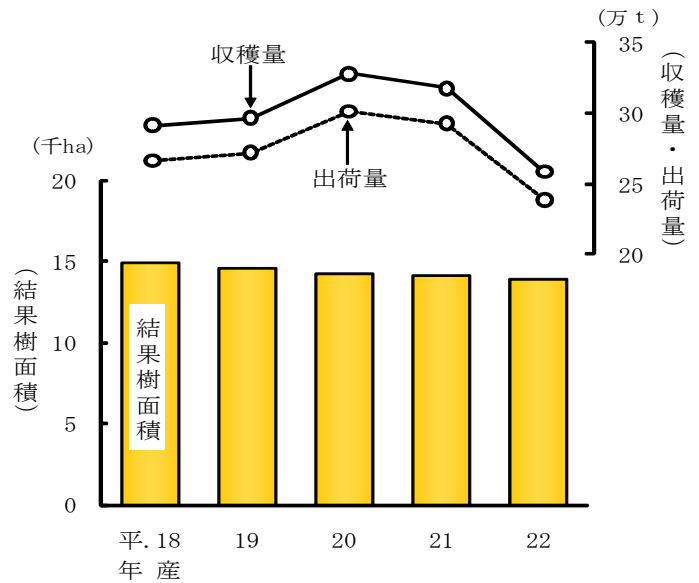


図3 日本なしの都道府県別収穫量割合

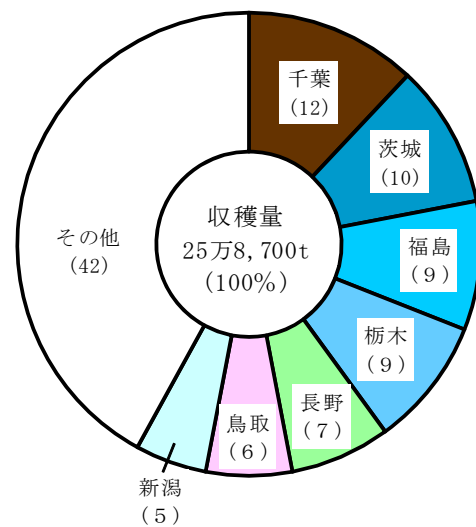


表1 平成22年産日本なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量(全国)

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
日本なし	13 900	1 860	258 700	238 800	98	83	81	82

2 ぶどう

平成22年産ぶどうの収穫量は18万4,800t、出荷量は16万8,500tで、前年産に比べてそれぞれ1万7,400t（9%）、1万6,300t（9%）減少した。

- (1) 結果樹面積は1万8,000haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。
これは、生産者の高齢化に伴う廃園等が進んだためである。

- (2) 10a当たり収量は1,030kgで、前年産に比べて6%下回った。
これは、果実肥大期の高温の影響により果実の肥大が抑制されたこと等による。

- (3) 都道府県別にみた収穫量割合は、山梨県が24%、長野県が13%、山形県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図4 ぶどうの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移

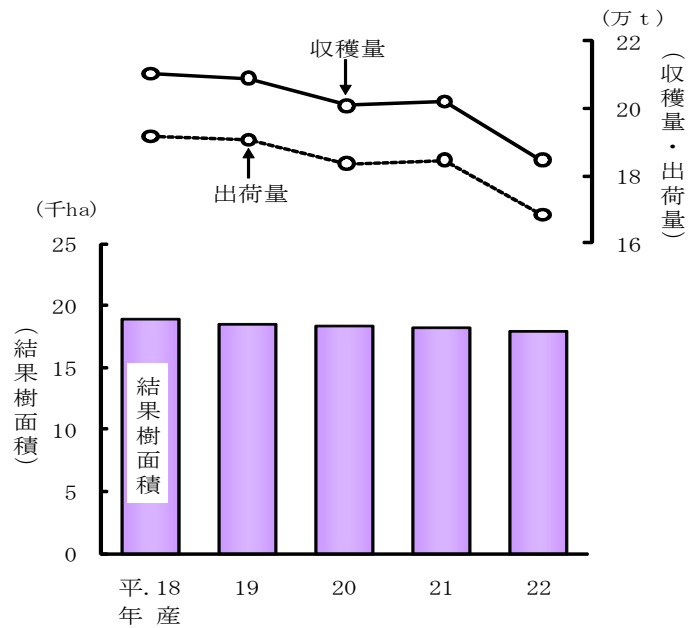


図5 ぶどうの都道府県別収穫量割合

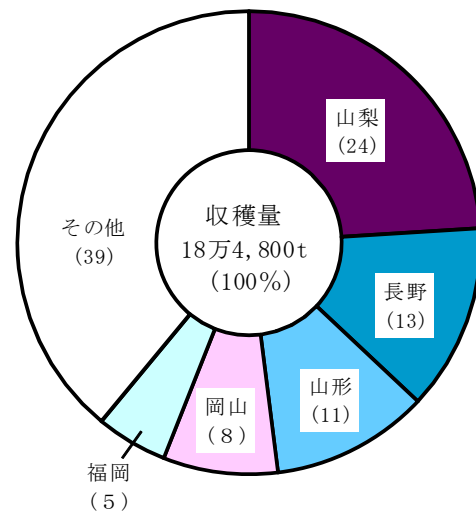


表2 平成22年産ぶどうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量(全国)

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
ぶどう	18 000	1 030	184 800	168 500	98	94	91	91

【統計表】

1 日本なし

全 国 都 道 府 県	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
全 国	13 900	1 860	258 700	238 800	98	83	81	82
うち 宮 城	162	2 090	3 390	2 950	98	91	89	89
秋 田	205	1 410	2 890	2 560	97	89	87	87
山 形	134	1 170	1 570	1 250	99	84	84	83
福 島	1 090	2 130	23 200	21 500	98	92	91	91
茨 城	1 350	1 860	25 100	24 000	97	80	77	78
栃 木	839	2 620	22 000	20 400	98	97	94	94
群 馬	229	1 990	4 560	4 010	97	77	75	76
埼 玉	507	1 860	9 430	8 660	97	76	74	74
千 葉	1 620	1 950	31 600	30 400	100	79	79	80
東 京	96	1 890	1 810	1 710	101	85	86	86
神 奈 川	266	2 040	5 430	5 100	99	92	92	91
新 潟	504	2 630	13 300	12 300	96	88	84	85
富 山	184	2 100	3 860	3 770	98	84	83	82
石 川	147	2 200	3 230	2 950	96	80	77	77
福 井	68	1 700	1 160	1 110	97	81	78	78
長 野	894	1 890	16 900	14 800	99	96	95	95
岐 阜	143	1 310	1 870	1 640	99	62	62	61
愛 知	397	1 760	6 990	6 380	102	89	90	90
滋 賀	55	1 580	869	798	106	80	85	86
京 都	82	1 280	1 050	984	89	59	53	53
兵 庫	93	1 420	1 320	1 140	100	65	64	62
鳥 取	1 030	1 550	16 000	14 600	94	76	72	72
広 島	150	1 640	2 460	2 300	101	84	85	82
徳 島	239	2 290	5 470	5 120	100	85	84	85
香 川	33	1 340	442	405	94	83	78	78
福 岡	483	1 910	9 230	8 740	99	78	77	78
佐 賀	317	1 520	4 820	4 490	98	80	78	77
長 崎	77	1 440	1 110	910	95	95	91	91
熊 本	575	1 400	8 050	7 420	98	68	67	67
大 分	397	2 020	8 020	7 330	100	76	76	76

注：主産県を対象に調査を実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した（以下の統計表において同じ。）。

2 ぶどう

全 国 都 道 府 県	結果樹面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比			
					結果樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
全 国	18 000	1 030	184 800	168 500	98	94	91	91
うち 北海道	1 040	769	8 000	7 520	97	106	103	102
青 森	438	1 120	4 910	4 010	98	101	99	98
岩 手	368	874	3 220	2 840	101	87	87	87
秋 田	190	1 230	2 340	2 090	98	90	89	89
山 形	1 670	1 180	19 700	17 900	99	99	98	98
福 島	280	1 110	3 110	2 780	101	92	93	91
栃 木	250	991	2 480	2 210	98	93	91	91
群 馬	139	760	1 060	846	104	88	92	89
埼 玉	189	786	1 490	1 400	98	93	92	93
新 潟	313	870	2 720	2 310	91	94	85	86
富 山	30	690	207	195	107	91	97	98
石 川	149	734	1 090	990	97	96	93	93
山 梨	4 060	1 110	45 100	41 800	100	89	89	89
長 野	2 300	1 040	23 900	22 100	100	88	88	88
愛 知	482	920	4 430	4 140	101	88	89	89
滋 賀	59	901	532	483	100	94	94	93
大 阪	464	1 090	5 060	4 780	98	87	85	85
兵 庫	282	852	2 400	2 220	89	98	87	87
鳥 取	83	783	650	610	97	85	82	83
島 根	284	950	2 700	2 600	98	86	84	84
岡 山	1 120	1 350	15 100	13 200	101	97	98	96
広 島	293	1 260	3 690	3 350	86	108	93	94
香 川	205	737	1 510	1 320	100	87	87	87
愛 媛	166	759	1 260	1 180	97	93	90	90
福 岡	950	963	9 150	8 470	100	91	91	91
大 分	307	810	2 490	2 270	92	93	86	85

【調査の概要】

1 調査の目的

果樹の結果樹面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、食料・農業・農村基本計画における果実を安定的に供給するための生産数量目標の策定及びその達成に向けた生産対策、需給調整・流通改善対策の推進、農業災害補償法に基づく共済事業の適正な運営のための資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

平成16年産（5年周期の全国調査年）の全国出荷量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び果樹共済事業を実施する都道府県を調査対象（主産県）としている。

(2) 調査対象の選定

調査の対象は、調査対象県において、調査対象品目の集出荷を行っている農協等の関係団体（関係団体調査）及び標本経営体（標本経営体調査）としており、その選定については、以下のとおりとした。

ア 関係団体調査（全数調査）

すべての調査対象となる関係団体とした。

イ 標本経営体調査（標本調査）

2005年農林業センサスにおいて、調査対象品目を販売目的で栽培した農林業経営体を無作為に抽出（母集団名簿を栽培面積順に並べ替えを行い、設定した栽培面積規模別の標本数に応じて等間隔に抽出する方法（系統抽出法）により抽出）した。

(3) 調査対象数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数 ①	有効 回収数 ②	有効 回収率 ③=②/①	母集団 経営体数 ④	標本数 ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	有効 回収数 ⑦	有効 回収率 ⑧=⑦/⑤
	団体	団体	%	経営体	経営体	%	経営体	%
日本なし	289	256	88.6	23,753	1,404	5.9	867	61.8
ぶどう	382	348	91.1	36,617	1,633	4.5	1,075	65.8

注：「有効回収数」は、回収があったもののうち、当年産において栽培がなかった経営体等を除いた数である。

3 調査事項

(1) 関係団体調査

結果樹面積及び出荷量

(2) 標本経営体調査

結果樹面積、収穫量及び出荷量

4 調査期日

収穫・出荷終了時

この調査の年産区分の主たる収穫期間は次のとおりである。

品目	主たる収穫期間
日本なし	平成22年8月～平成22年9月
ぶどう	平成22年7月～平成22年10月

5 調査方法

結果樹面積の把握は、関係団体に対する往復郵送調査及び職員による巡回・見積りの方法、収穫量及び出荷量の把握は、関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査並びに職員による巡回・情報収集の方法による。

6 集計方法

結果樹面積は、関係団体調査及び巡回・見積りにより得られた結果を集計している。

収穫量は、往復郵送調査結果により算出した10 a 当たり収量を、必要に応じて巡回・情報収集結果により補完し、結果樹面積を乗じて算出している。

なお、往復郵送調査結果により算出した10 a 当たり収量については、調査対象品目について、関係団体が取り扱う数量の割合がおおむね8割以上の場合は団体調査結果を、おおむね8割未満の場合は標本経営体調査結果を採用している。

7 全国値の推計方法

全国値は、本年産の主産県の結果（結果樹面積については、平成22年10月に公表した「平成22年果樹及び茶栽培面積（7月15日現在）」における栽培面積に占める割合も考慮。）と全国調査年（平成21年産）における全国に占める主産県の割合を基に推計している。

8 目標精度

本調査において、目標精度は設定していない。

9 用語の解説

- (1) 結果樹面積とは、生産者が当該年産の収穫を意図して結果させた栽培面積をいう。
- (2) 収穫量とは、収穫したもののうち、生食用、加工用として流通する基準を満たすものの重量をいう。
- (3) 出荷量とは、収穫量から生産者の自家消費、生産物を贈与した量、収穫後の減耗等を差し引いた重量をいう。

10 統計表の見方

統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1 000)	3 桁 (100)
四捨五入する桁（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入 しな い
例	四捨五入する前（原数）	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123 500	12 300	1 230	123

11 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は追って刊行する『平成22年産果樹生産出荷統計』に掲載する。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】
この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「果樹」に分類しています。

【関連リンク】

果樹関係ページ: 農林水産省 > 生産 > 園芸作物 (野菜・果樹・花き) > 果樹のページ
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/>

果樹農業振興基本方針:

http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/f_sesaku/pdf/kihon-housin.pdf

問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 園芸統計班
電 話 : 03-6744-2044

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画課 広報普及班
電 話 : 03-6744-2037